

## 〔 編 集 後 記 〕

虫の声と朝夕に初秋を感じるようになりました。ここにお届けしました千葉医学雑誌第88巻5号は、症例報告2編、話題1編、第四回千葉医学会奨励賞受賞論文3編、例会報告3編、平成23年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告3編、Open Access Paper (OAP) 要旨 (日本語) 1編とその英文症例報告 (Case Report) 1編を含み、豊富な内容となりました。ご投稿いただきました諸先生方にまずお礼を申し上げます。

症例報告の2編はいずれもご苦労された症例の詳細な報告です。このようなデータの蓄積が医療・医学の発展にとって貴重な財産となっていくと思います。

話題は、語学教育に携われた池田黎太郎先生との「医学用語語源対話」として、杉田克生先生が書かれました。私は解剖系に属していますので、特に興味深いものがありました。学生時代、医学ラテン語講義の中で医学用語の語源とギリシャ語／ラテン語やギリシャ神話との関係に興味をもった記憶も蘇ってきました。医学用語の語源の理解には広く深い知識が必要ですが、学生時代に経験するような naïve な直感も必要だと改めて思いました。

例会報告は、細胞治療内科学、精神科および泌尿器科関連の例会抄録です。いずれも多数で多彩な報告がなされており、それぞれの領域の active な活動が伝わってきます。

第四回千葉医学会奨励賞受賞論文の3編はいずれも力作です。小野寺 淳先生はMenin欠損マウスの解析を中心に「免疫系のエピジェネティック機構の解明と応用」について、鈴木英一郎先生

は困難な肝細胞癌の治療に関する臨床試験の立場から「進行肝細胞癌における全身化学療法の研究」の経過について書かれています。本学6年生の和泉允基君は、「神経障害性疼痛と脊髄グリア活性」について、P75受容体抗体の作用を比較して考察しています。それぞれ、将来の千葉医学会を牽引していくことが期待されます。

猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告では、中村順一先生が「特発性大腿骨頭壊死症に対する体外衝撃波療法の臨床応用」、澤井 撰先生が「定量的プロテオーム解析による筋萎縮性側索硬化症における脳脊髄液バイオマーカーの探索」、そして佐藤洋美先生が「腎細胞癌に対する分子標的治療薬とエピジェネティック治療薬の併用による薬剤耐性の克服」についての研究成果を披露され、本補助金が有効に活用されたものとして祝福されます。

OAP英文症例報告は、Furuyaらによる「外傷を契機に発見された硬膜内腫瘍の1例」に関するCase Reportです。成果公表の方法として世界的にOpen access化が進んでいますが、千葉医学雑誌は第88巻1号から、「Chiba Medical Journal-Open Access Paper」を採用しています (詳細は第88巻1号編集後記)。この導入により、論文は国の内外で広く読まれ引用されていくこととなりますので、Chiba Medical Journalの認知度が高まり世界的なインパクトが期待されます。一方、それに伴う論文も求められます。本誌の一層の発展を期待し、皆様方のより一層のご協力をお願い申し上げます。

(編集委員 年森清隆)